



Kodak

i1120 スキャナー

ISISドライバ用スキャン
セットアップガイド

ISIS ドライバ用スキャンセットアップガイド

目次

[Scan Validation Tool] の起動.....	2
[Scan Validation Tool] ダイアログボックス	4
イメージ設定の構成	6
[メイン] タブ	8
[レイアウト] タブ.....	10
[スキャン領域] ダイアログボックス	11
[イメージ処理] タブ	12
[カラーの自動検知] タブ	14
[ドロップアウト] タブ	16
[調整] タブ	17
[イメージの端を埋める] タブ.....	19
[ブランクイメージ検出] タブ	20
スキャナー設定の実行	21
[スキャナー] タブ	22
[重送検知] タブ	23
[ログ] タブ.....	24
[バージョン情報] タブ.....	25

コダック ScanMate i1120 シリーズスキャナーではイメージ処理機能によって高画質のスキャン画像を取得できます。

イメージ処理とはそれぞれのイメージに対して給紙の傾き調整や不要な枠消し、イメージのノイズ除去などスキャン画像を自動的に向上させる機能のことです。

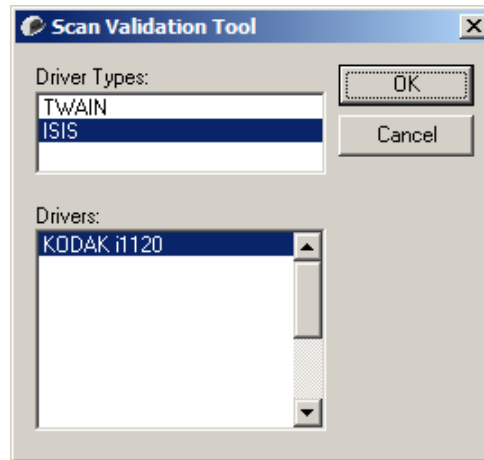
ISIS ドライバは、スキャナーと通信を行うソフトウェアです。このドライバは EMC Captiva によって製作、サポートされ、コダックがスキャナーに同梱しています。このドライバは ISIS ドライバをサポートする多くのスキャンアプリケーションと接続するために使用します。


本ガイドでは ISIS ドライバの使用手順やスキャナーの機能について説明します。各機能は、使用されるスキャンアプリケーションのユーザーインターフェースでも選択できます。

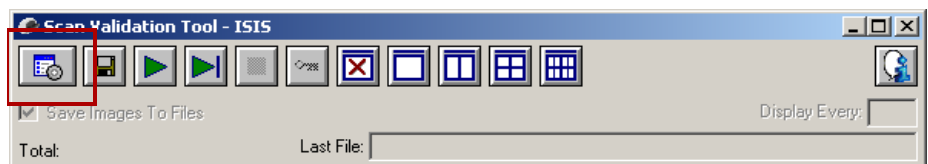
[Scan Validation Tool] の起動

注：Scan Validation Tool はコダックの診断ツールです。コダックは Scan Validation Tool をスキャンアプリケーションとして使用することを推奨しません。

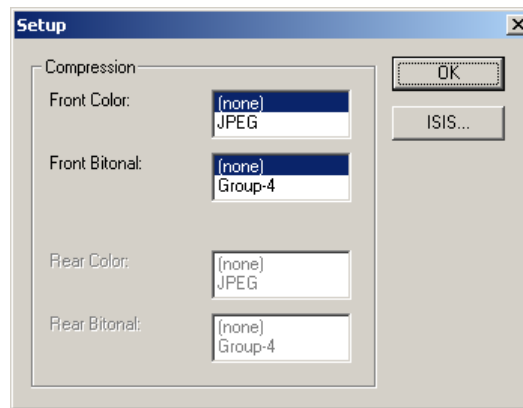
1. [スタート]>[プログラム]>[Kodak]>[Document Imaging]>[Scan Validation Tool] を選択します。



2. ドライバタイプから [ISIS] を選択し、ドライバから [コダック] i1120 を選択して [OK] をクリックします。[SVT (Scan Validation Tool)] のメイン画面が表示されます。この画面のアイコンについては次の章を参照してください。
3. イメージ表示パネルを表示する場合は  アイコンをクリックします。
4. Scan Validation Tool のメイン画面で [セットアップ] アイコンをクリックします。

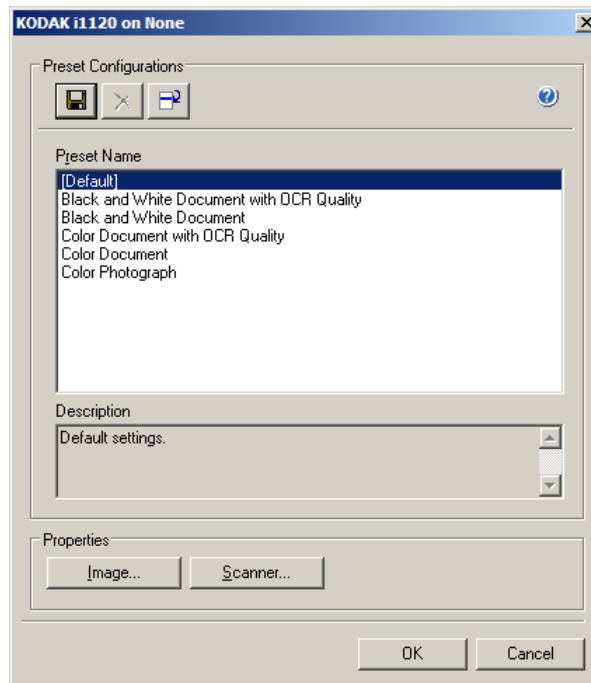


[セットアップ] ダイアログボックスが表示されます。



5. **ISIS** をクリックします。[プリセット設定] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには保存されたドライバ設定のリストがあります。

プリセットは保存、削除、インポートが可能で、既存のプリセットの選択や設定の変更ができます。

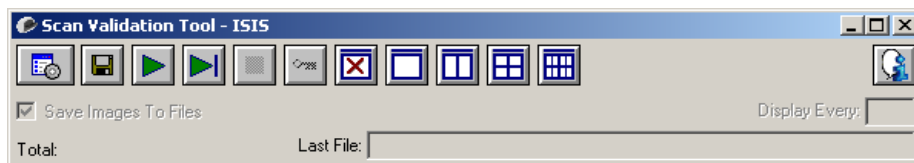


6. **[イメージ]** をクリックすると、イメージ関連の設定ができます。

以降の章ではイメージ設定の詳細や手順について説明します。スキャナー設定の手順については、後述の「スキャナー設定の実行」を参照ください。

[Scan Validation Tool] ダイアログボックス

Scan Validation Tool (SVT) はコダックが提供する診断アプリケーションです。SVT のユーザインタフェースを使用すると、スキャナーのすべての機能にアクセスできるので、スキャナーが正常に動作しているかどうか効率的にチェックできます。Scan Validation Tool で ISIS ドライバを使用してスキャナーの機能を検証できます。



[ツールバー] ボタン



[セットアップ] — 選択されたドライバ用のユーザインタフェースを表示します。



[保存先] — スキャンしたイメージを保存するディレクトリとファイル名を選択します。このオプションは、**[イメージをファイルに保存]** を選択した場合に利用できます。



[スキャン開始] — 入力トレイにある原稿をスキャンします。



[1 ページスキャン] — 1 ページだけスキャンします。



[スキャン停止] — スキャンを終了します。



[ライセンスキー] — [ライセンスキー] ウィンドウを表示します。



[表示モード (画像なし)] — イメージビューアウィンドウを閉じます (イメージは表示されません)。



[表示モード(1 画像)] — スキャン時に 1 イメージを表示します。



[表示モード(2 画像)] — スキャン時に 2 イメージを表示します。



[表示モード(4 画像)] — スキャン時に 4 イメージを表示します。



[表示モード(8 画像)] — スキャン時に 8 イメージを表示します。



[バージョン情報] — Scan Validation Tool のバージョンを表示します。

[イメージをファイルに保存] — 選択すると、指定したディレクトリにイメージが保存されます。

[指定数ごとに表示] — スキャン中に表示するイメージのサンプリングレートを入力します。たとえば、すべてのイメージを表示する場合は「1」を入力します。イメージを 10 個おきに表示する場合は「10」を入力します。

[合計] — 現在の [Scan Validation Tool] セッションでスキャンされた画像の総数を表示します。

- ISIS ドライバにアクセスする場合は [Scan Validation Tool] ダイアログボックスの **[セットアップ]** アイコンをクリックし、コダックスキャナーメインウィンドウにアクセスします。

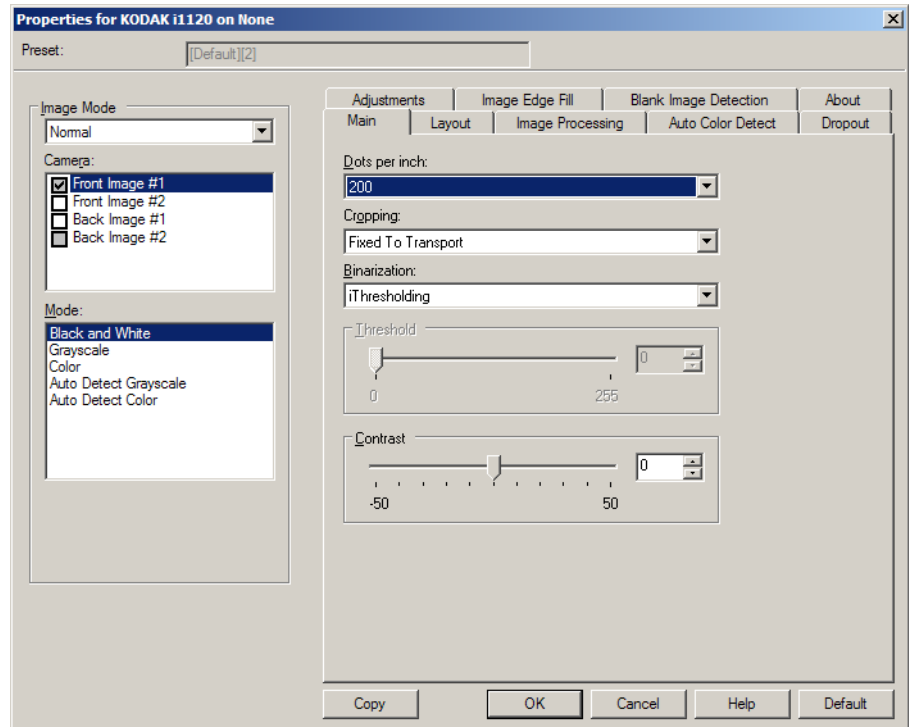
[最後のファイル] — 最後に保存されたファイルのフルパスとファイル名を表示します。

イメージ設定の実行

ISIS ドライバのメインウィンドウには、イメージ設定に使用するデフォルトタブがあります。スキャンの目的やニーズに合わせて、これらのタブを使ってオプションを設定できます。

ここでは、ISIS ドライバのデフォルト インタフェースについて説明します。

注：[イメージモード] 選択と (メイン、レイアウト、イメージ処理など) すべてのイメージタブがあります。



[イメージモード] — 以下のいずれかのカメラオプションを選択します。

- [カメラ] — 読取り面（表面および裏面）のカメラが一覧表示され、それぞれイメージ処理値を定義できます。オプションには、[表面イメージ 1]、[表面イメージ 2]、[裏面イメージ 1]、[裏面イメージ 2] があります。

コダックスキャナーのドライバでは、カメラ設定を個別に設定できません。白黒イメージに適用される設定や、カラー/グレースケールイメージに適用される設定があります。

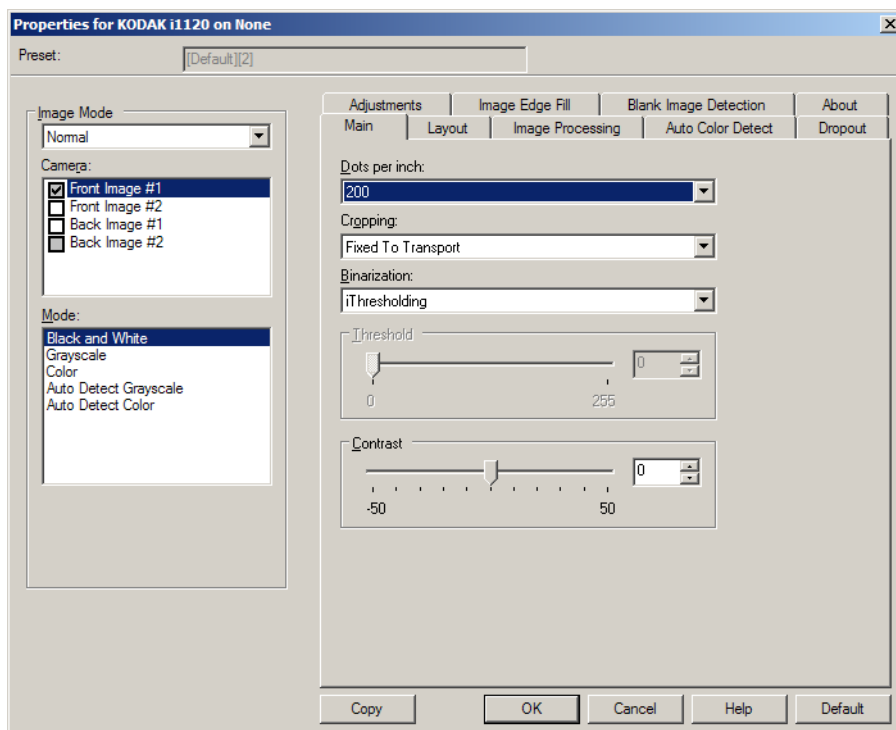
- **[モード]**— 以下のいずれかを選択します。
 - **[白黒]**: 白黒 2 階調でイメージを作成する場合に選択します。
 - **[グレースケール]**: グレースケールでイメージを作成する場合に選択します。
 - **[カラー]**: カラーでイメージを作成する場合に選択します。
 - **[グレースケールの自動検知]**: カラー自動検知のグレースケールスキャンを設定します。詳細は「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。
 - **[カラーの自動検知]**: カラー自動検知のカラースキャンを設定します。詳細は「[カラーの自動検知] タブ」を参照してください。

[ボタン]— ウィンドウ下部にあるボタンは、すべてのタブに対して適用されます。

- **[コピー]**— 両面原稿をスキャンする場合のみ利用できます。片面のカラー、グレースケール、白黒イメージの設定を定義してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を裏面にコピーすることができます。たとえば、**[表面イメージ 1]** を設定してから、[コピー] ボタンをクリックすると、その設定内容を **[裏面イメージ 1]** にコピーできます。
- **OK**— すべてのタブの設定値を保存します。
- **[キャンセル]**— 変更内容を保存しないでウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]**— 選択されたウィンドウに示されたオプションについてオンラインヘルプを表示します。
- **[デフォルト]**— 全てのタブの値をデフォルト設定に戻します。

[メイン] タブ

[メイン] タブには、以下のオプションがあります。



[1 インチあたりのドット数] (dpi) または解像度 — スキャン解像度を指定します。この設定はスキャンするイメージの品質に大きく影響します。解像度を高くすると、画質が良くなります。ただし、高い解像度でスキャンすると、スキャンに要する時間が長くなり、ファイルサイズが大きくなります。

ドロップダウンリストから解像度を選択します。デフォルトは 200 dpi です。解像度は 75、100、150、200、240、300、400、600、1200 dpi に設定できます。

[クロップ] — スキャン原稿の一部を取得できます。クロッピングオプションは、カラー/グレースケール、白黒イメージですべて使用できます。表面と裏面のクロッピングを個別に設定できますが、同時出カスキャンの場合は、カラー/グレースケールクロッピングと白黒クロッピングを読み取り面ごとに同じ値に設定する必要があります。クロッピングオプションは、1 イメージに対して 1 つだけ適用できます。以下のいずれかのオプションを選択します。

- **[自動]**: イメージの端を基準に、異なるサイズに対してクロッピングウィンドウを動的に調整します。
- **[アグレッシブ]**: イメージの端にある黒い外枠を除去します。これを選択すると、原稿の端のイメージデータが一部失われる可能性があります。

- **[ガイド幅に合わせる]**: (同じサイズ of 原稿をまとめてスキャンする場合) イメージを取得する領域を定義できます。[ガイド幅に合わせる]クロッピングは、用紙サイズとページレイアウトを合わせて、原稿を中央に揃えてスキャンする場合に使用します。中央に揃えない場合は、[レイアウト] タブを選択してスキャン領域を設定する必要があります。詳細については、後述の「[レイアウト] タブ」を参照してください。
- **[ドキュメントに合わせる]**: (ゾーンプロセッシング): (同一サイズの複数原稿に使用) — ゾーンプロセッシングは、原稿の左上端を起点にレイアウトできる浮動固定クロップウィンドウ (ゾーン) です。そのゾーンをカラー/グレースケールか白黒を選択できます (白黒とカラー/グレースケールを別のウィンドウに定義することもできます)。パラメータは、イメージの表面と裏面でそれぞれ選択できます。このオプションは、ある部分をカラー/グレースケールまたは白黒で別々に保存したい場合、自動クロッピングと使用します。写真、署名、エンボス (浮き出し)、印章など、対象となる部分が一定の場所に配置されている場合に大変効果的です (対象の小さい部分をカラー/グレースケールでスキャンし、残りの部分を白黒でスキャンする場合など)。ゾーンを定義する場合は、[レイアウト] タブを選択します。

[バイナリゼーション] — オプションは、グレースケールイメージに適用して白黒イメージを出力します。背景色や濃度が異なっていたり、前景情報の色や濃度が異なっても、背景情報から前景情報を区別できる特長があります。同じ画像処理パラメータを使用してさまざまなタイプの原稿をスキャンでき、優れたスキャンイメージを得ることができます。

- **iThresholding**: 原稿を自動的に識別して、最適なしきい値 (スレッシュホールド) を決定して高品質のイメージを生成します。単一の設定で画質が異なる原稿 (文字のかすれ、濃淡のある背景、カラーの背景など) をスキャンできるので原稿を仕分けする手間を省けます。iThresholding を使用する場合は、[コントラスト] のみ調整可能です。
- **固定処理 (FP)**: 白黒の原稿やその他のコントラストの高い原稿に使用します。
- **アダプティブスレッシュホールド (ATP)**: イメージの前景情報 (文字、グラフィック、線など) を背景情報 (白または白以外の用紙の背景) と区別します。

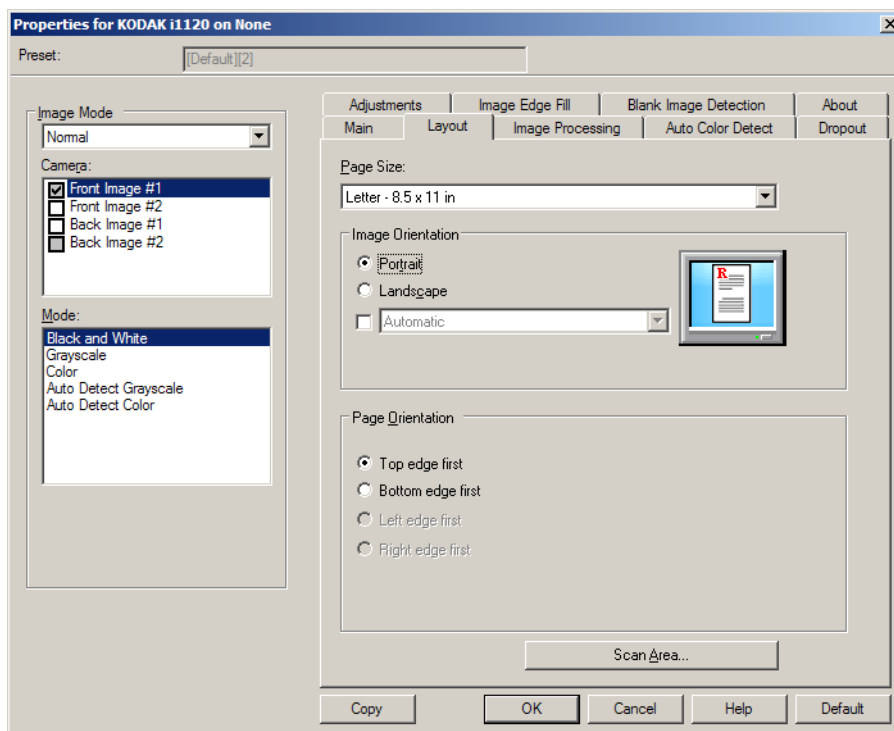
しきい値: カラー/グレースケールイメージ中の白の量を変更します。スライダを使って、0 ~ 255 の範囲の値を設定してください。デフォルトは 90 です。

[コントラスト]: 白黒の明暗の差を調整し、イメージをシャープにしたりソフトにします。

[コントラスト] を低く設定すると、白黒の明暗の差が小さくなり、ソフトなイメージになります。[コントラスト] を高く設定すると、白黒の明暗の差が大きくなり、シャープなイメージになります。-50 ~ 50 までの値を設定します。デフォルト値は 0 です。

[レイアウト] タブ

[レイアウト] タブには、以下のオプションがあります。



[用紙サイズ] — スキャナーが最初に選択されたときの初期設定の用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから各用紙サイズを選択できます。**[自動]** または **[アグレッシブ]** クロッピング オプションを使用する際は、用紙サイズを **[スキャナーの最大値]** に設定する必要があります。

イメージの向き

- **[縦]** : 従来の縦長の向きにイメージの方向を表示します。
- **[横]** : 横長の向きにイメージの方向を表示します。

[ページの向き] — スキャナーにセットする原稿の向きを選択できます。**[用紙上端より]**、**[用紙下端より]**、**[用紙左端より]**、**[用紙右端より]** のいずれかを選択します。

[表面 / 裏面画像の結合]— 両面の各イメージを1つにしたイメージを作成します。このオプションを有効にすると、原稿の表面と裏面を1つのイメージに結合します。以下から選択します。



[表面を上]：表面のイメージが裏面のイメージの上に配置されます。
[表面が下]：裏面のイメージが表面のイメージの上に配置されます。

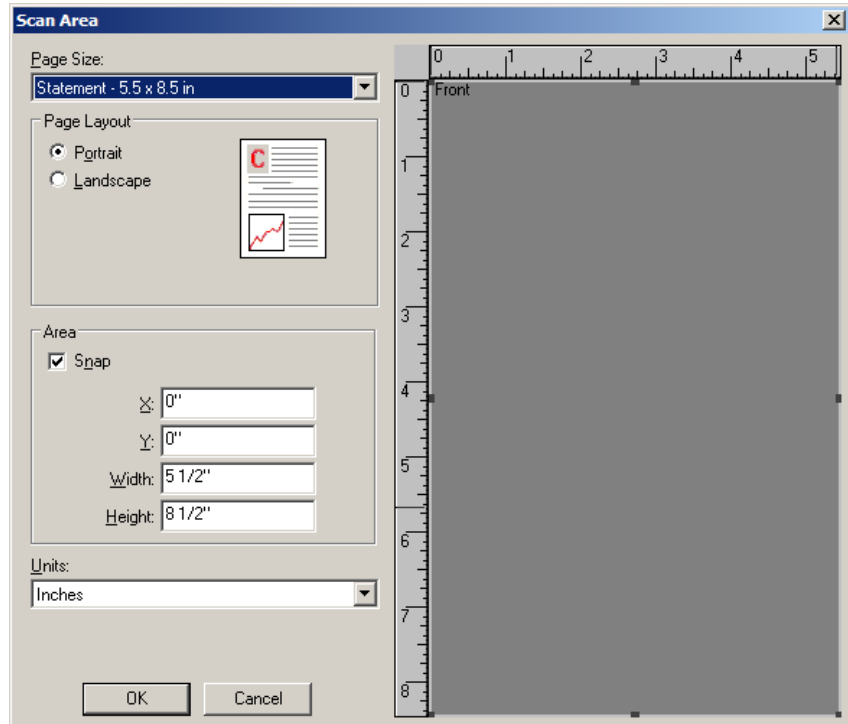


[表面が左]：表面のイメージが裏面のイメージの左に配置されます。
[表面を右]：裏面のイメージが表面のイメージの左に配置されます。

[スキャン領域]— [スキャン領域] ダイアログボックスを表示します。
[スキャン領域] オプションは、クロッピングオプションが **[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** に設定されている場合に利用できません。詳細については、「[スキャン領域] ダイアログボックス」を参照してください。

[スキャン領域] ダイアログボックス

[スキャン領域] ダイアログボックスを使用して、コンピュータに出力される画像データのサイズを定義できます。



[用紙サイズ]— スキャナーが最初に選択されたときの初期設定の用紙サイズを設定します。ドロップダウンリストから用紙サイズを選択できます。

注：[用紙サイズ]と[ページレイアウト]は、[レイアウト]タブにも表示されます。[スキャン領域] ダイアログボックスで設定を変更すると、[レイアウト]タブにも変更内容が反映されます。逆の場合も同じです。

ページレイアウト

- **[縦]**：従来の縦長の向きにイメージの方向を表示します。
- **[横]**：横長の向きにイメージの方向を表示します。

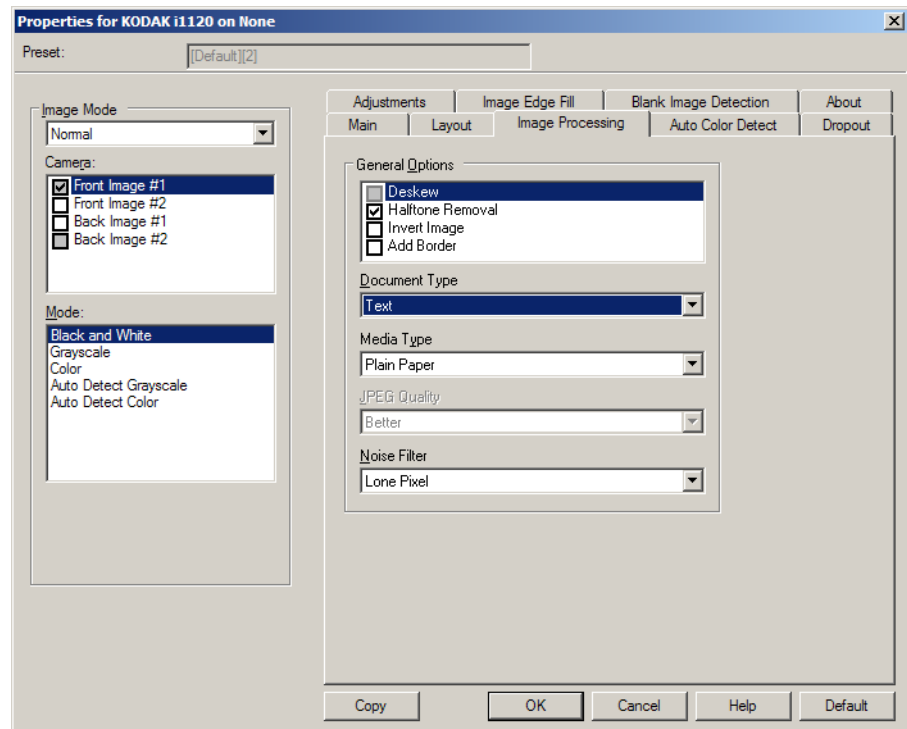
領域

- **[スナップ]**：プレビューエリアの領域を 1/8 インチ単位で制御する場合に、このオプションを有効にします。このオプションは、**[ピクセル]**モードでは無効になります。
- **X**：スキャナーの左端からスキャン始点の横位置を設定します。
- **Y**：スキャナーの上端からスキャン始点の縦位置を設定します。
- **幅**：スキャン領域の幅を設定します。
- **高さ**：スキャン領域の高さを設定します。

[単位]— 領域を定義する単位を **[ピクセル]**、**[インチ]**、**[センチメートル]** から選択します。

[イメージ処理] タブ

[イメージ処理] タブには、以下のオプションがあります。



一般オプション

- **[傾き補正]** — 原稿の先端の +/-0.3 度以内の傾きが自動的に補正されます。自動傾き補正では、最大 45 度までの傾きを検出し、200dpi で 24 度まで、300dpi で 10 度まで補正できます。**[ガイド幅に合わせる]** または **[ドキュメントに合わせる]** オプションが選択されている場合、このオプションは利用できません。

注：データの損失を防ぐために、原稿の四隅が搬送路の中に収まっていることを確認してください。

- **[ハーフトーン除去]** — ハーフトーンスクリーンを使って、点描画の文字やイメージ、濃淡のある背景やカラーの背景を持つイメージの質を高め、ハーフトーンスクリーンにより発生したノイズを効果的に除去します。
- **[イメージ反転]** — 黒ピクセルがイメージ内に保存される方法を選択できます。デフォルトでは、黒ピクセルは黒として、白ピクセルは白として保存されます。黒ピクセルを白として、白ピクセルを黒として保存する場合は、このオプションを有効にします。

注：ご使用のアプリケーションがイメージデータの解析／処理を誤り、希望とは異なるイメージが保存される場合は、このオプションで対応できます。

- **[境界線を追加]** — イメージの上下左右に、外枠を追加します。

ドキュメントタイプ

- **[テキスト]**: 文字原稿の場合に選択します。
- **[文字と図形]**: 文書、グラフィック（棒グラフ、円グラフなど）、線画などが混在している原稿の場合に選択します。
- **[写真]**: 主に写真で構成された原稿の場合に選択します。

[書類のタイプ]— スキャンする用紙の素材や重量に基づいて、いずれかのオプションを選択します。利用できるオプションは、**[普通紙]**、**[薄紙]**、**[光沢紙]**、**[カードストック]**、**[雑誌]**です。

[JPEG (Joint Photographic Editor Group) 品質]— JPEG 圧縮を選択した場合、いずれかの品質オプションを選択します。

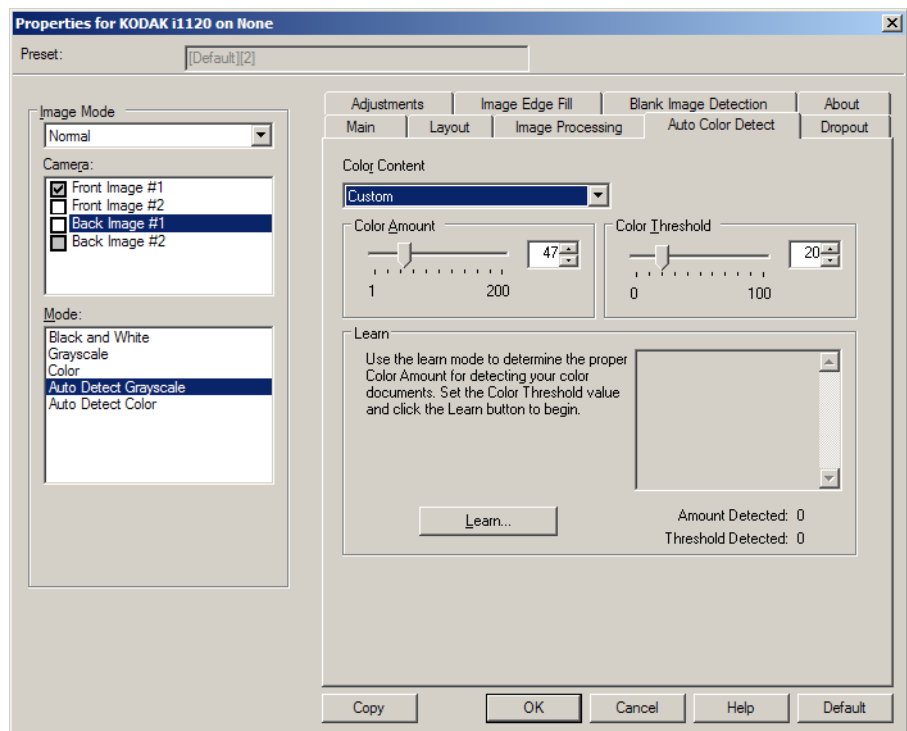
- **[ドラフト]**: 圧縮率を最大にして最小サイズのイメージを生成します。
- **[標準]**: 標準的な圧縮率ですが、満足いく品質のイメージが生成されます。
- **[高]**: 一部圧縮され、良い品質のイメージが生成されます。
- **[最高]**: 小さい圧縮率で良い品質のイメージが生成されます。
- **[高品質]**: 最小の圧縮率で最大サイズのイメージが生成されます。

ノイズフィルタ

- **[なし]**: オプションを実行しません。
- **[孤立ピクセル]**: 白ピクセルで完全に囲まれている単一の黒ピクセルを白へ変換するか、黒ピクセルで完全に囲まれている単一の白ピクセルを黒へ変換することにより、ランダムノイズを減らします。
- **[マジョリティールール]**: 各ピクセルをその周辺全域のデータに基づき設定します。周辺のピクセルの大部分が白の場合は白になり、黒の場合は黒になります。

[カラーの自動検知] タブ

[カラーの自動検知] タブには、以下のオプションがあります。



カラー設定

- **[低]**: 色の量が少ない原稿をスキャンしてカラー/グレースケールイメージとして保存する場合に選択します。黒い文字と小さなロゴが主体の原稿や、マーカの量や写真の色が少ない原稿をスキャンする場合に適します。
- **[中]**: [低] オプションよりも色の割合が多い原稿をスキャンしてカラー/グレースケールイメージとして保存する場合に選択します。
- **[高]**: [中] オプションよりも、色の割合が多い原稿をスキャンしてカラー/グレースケールイメージとして保存する場合に選択します。中～大規模のカラー写真などを多用している原稿に適します。中間色の割合が大きい写真を正しくスキャンするには、色量やカラーレスショルドの調整が必要になる場合があります。
- **[カスタム]**: [色量] オプションと [カラーレスショルド] オプションの値を調整することができます。

注: [カラーの自動検知] を設定した場合、まず [中] オプションを選択してから通常のスキャン作業でテストしてみることをお勧めします。白黒と比較して原稿の大半がカラー/グレースケールで出力された場合は、[高] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。白黒と比較してカラー/グレースケール出力が少なすぎる場合には、[低] に変更してから、もう一度ジョブを実行してください。以上のオプションで満足のいく結果が得られなかった場合は、[カスタム] オプションを選択して色量やカラーレスショルドを調整してください。

[色量] : スキャンイメージをカラー／グレースケールで保存する際に必要な原稿の色の量です。色量の値を増やすと、必要となるカラーピクセルの量も増加します。有効値は 1 ～ 200 です。

[カラー スレッシュホールド] : 色量の算出時に、色として識別させるためのカラーしきい値や彩度の割合（青と紺色の対比など）です。値を増やすと、必要となる彩度が高くなります。有効値は 0 ～ 100 です。

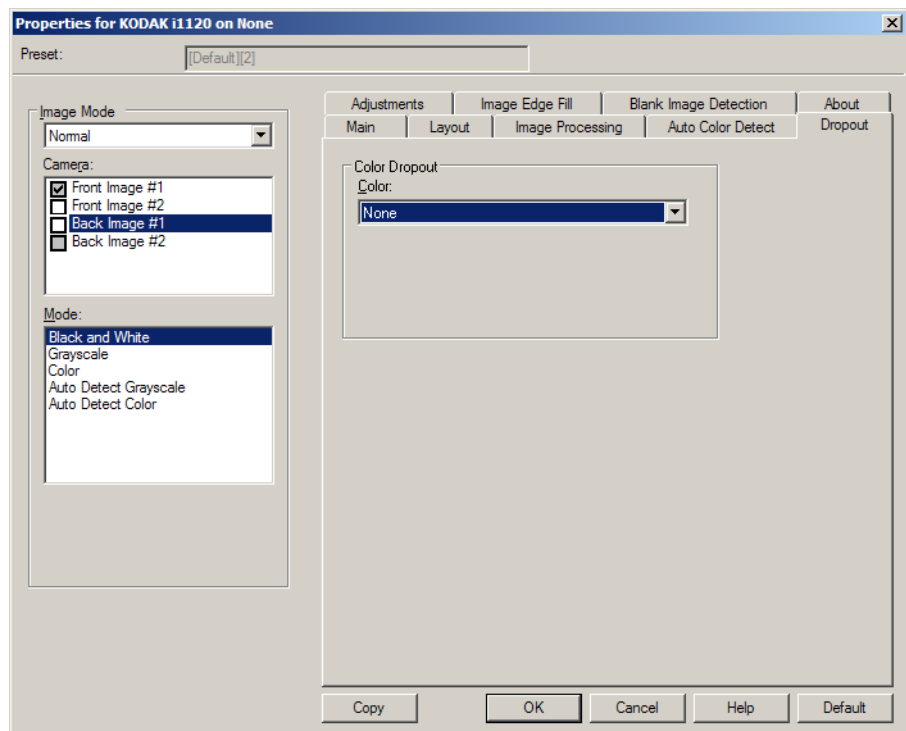
[自動設定] : **[低]**、**[中]**、**[高]** オプションで期待通りの結果が得られない場合は、**[自動設定]** オプションを使用します。

1. **[自動設定]** をクリックし、メッセージに従って作業を行います。
2. 入カトレイにサンプルのカラー原稿を 5 枚以上セットして、**[OK]** をクリックします。セットした原稿が分析され、推奨する色量が算出されます。
3. 表示された **[色量]** と **[カラー スレッシュホールド]** の値をメモに書き留めます。この値をアプリケーションで使用します。

注 : これらの設定は、スキャンされたサンプルのカラー原稿に基づいて算出されます。算出された値を使っても期待通りの結果にならない場合は、**[カラー スレッシュホールド]** の値を直接調整してください。

[ドロッパアウト]タブ

[ドロッパアウト]タブには、以下のオプションがあります。

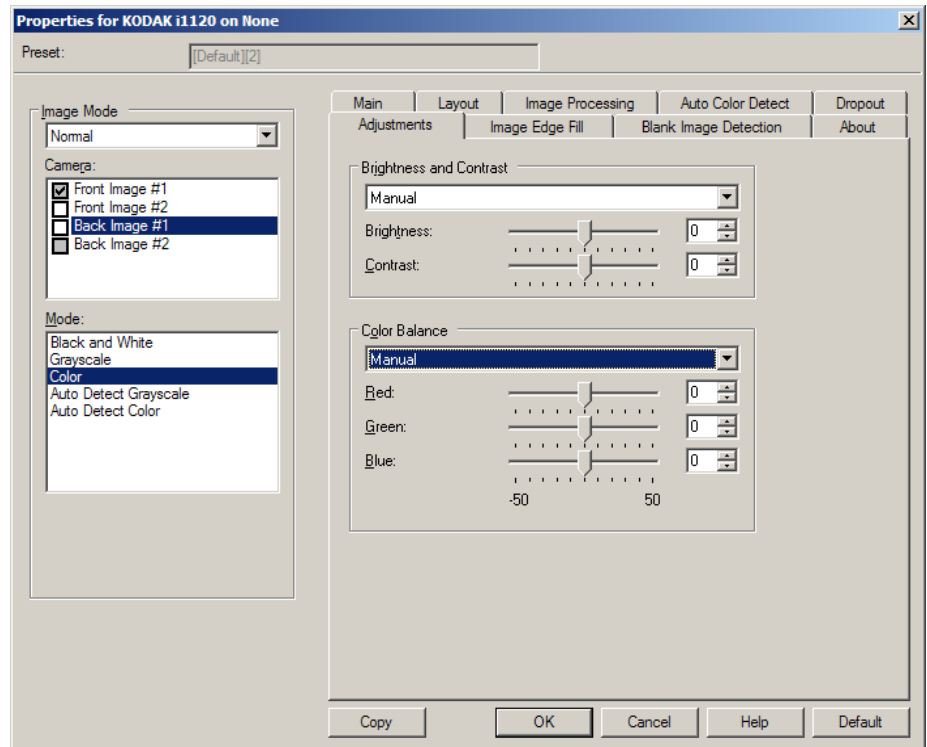


[ドロッパアウト]タブは、フォームの背景を消去するために使用します。背景が消去されると入力されたデータのみがイメージとして保存されます（フォームの罫線とボックスを消去）。白黒スキャンの場合、この設定でイメージ生成用のグレースケールイメージに影響を受けます。

[カラードロッパアウト]— i1120 スキャナーは[赤]、[緑]、[青]をドロッパアウトできます。[なし]がデフォルトです。

[調整] タブ

[調整] タブには、以下のオプションがあります。



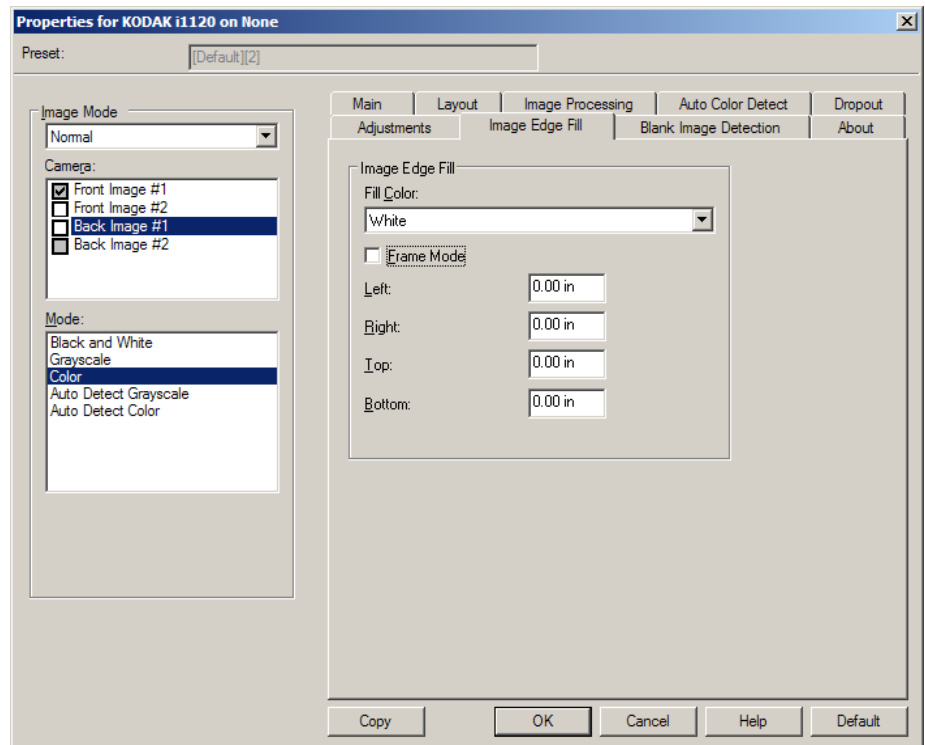
明度とコントラスト

- [なし]: オプションを実行しません。
- [手動]: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - [明度]— カラー／グレースケールイメージ中の白の量を変更します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は0です。
 - [コントラスト]— イメージをシャープに、またはソフトにします。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は0です。

[カラーバランス] (グレースケールでは無効です)。

- [なし]: オプションを実行しません。
- [手動]: すべてのイメージに適用させる特定の値を設定できます。
 - [赤]— カラーイメージ中の赤のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は0です。
 - [緑]— カラーイメージの緑のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は0です。
 - [青]— カラーイメージの青のレベルを調整します。値の範囲は、[-50] から [50] です。デフォルト値は0です。

イメージの端を埋めるタブ [イメージの端を埋める] タブには、以下のオプションがあります。



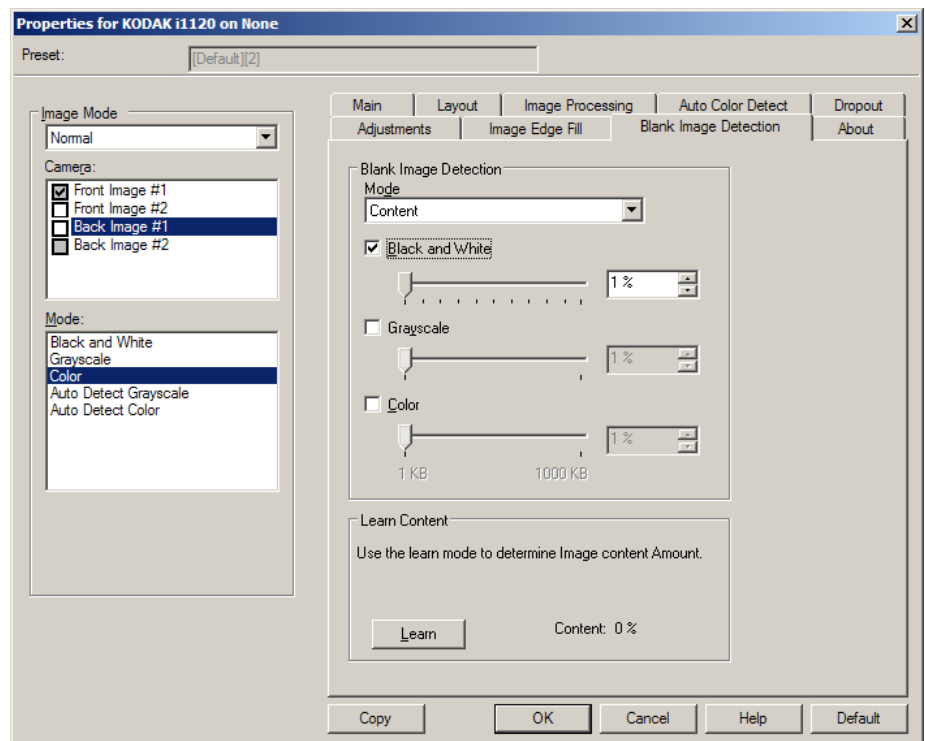
[イメージの端を埋める] — 最終的に出力されるイメージの端の領域を、選択された色で埋めます。

注：[イメージの端を埋める]を使用する場合は、大きな値を入力しないよう注意してください。値が大きすぎると、イメージデータが塗りつぶされる場合があります。

- **[色埋め]**：端を埋める色を選択できます。
 - (なし)
 - 白：イメージの端を白で埋めます。
 - 黒：イメージの端を黒で埋めます。
- **[フレームモード]**—[イメージ端埋め] オプションで選択した色で4辺を等分に埋めます。または[左]、[右]、[上]、[下]を指定して、辺ごとに埋める量を指定できます。

[ブランクイメージ検出] タブ

[ブランクイメージ検出]には、以下のオプションがあります。



[ブランクイメージ検出]—スキャンアプリケーションに白紙イメージが出力されないように設定できます。

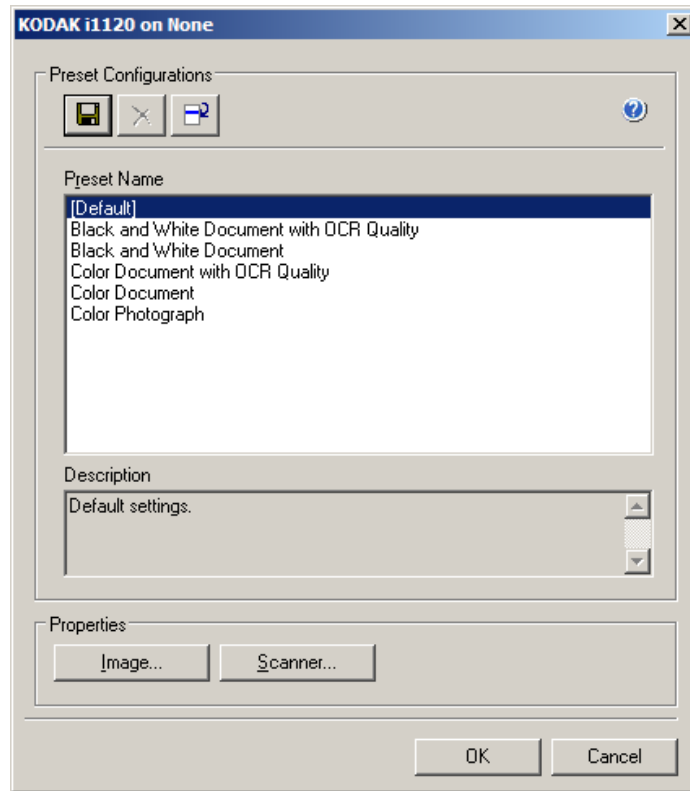
- **[オフ]**: イメージがすべてスキャンアプリケーションに出力されます。
- **[サイズ]**: (他のすべての設定を適用後に) イメージのサイズに基づいて、白紙であるかどうか判断されます。白紙と判断されるイメージのサイズ (KB) を指定します。設定値未満のサイズのイメージは作成されません。このオプションを使用する場合は、削除するイメージの種類 ([白黒]、[グレースケール]、[カラー]) ごとに白紙と判断されるイメージサイズを指定します。各フィールドに値を入力しない場合は、すべてのイメージが保持されます。
- **[内容]**: イメージ内の文字量に基づいて白紙を検出します。[白黒]、[グレースケール]、[カラー] を選択し、スキャナーが白紙と判断する最大の文字量を設定します。この値以上のイメージは白紙でないと判断され、スキャンアプリケーションに出力されます。値の範囲は、[0] から [100] です。

[自動設定]—スキャン原稿にもとづいてスキャナーが文字量を判断します。この機能を使用する場合は、[自動設定] をクリックします。

注：自動設定モードは表面と裏面を同時に適用できません。適用する読み取り面を選択してください。

スキャナー設定の実行

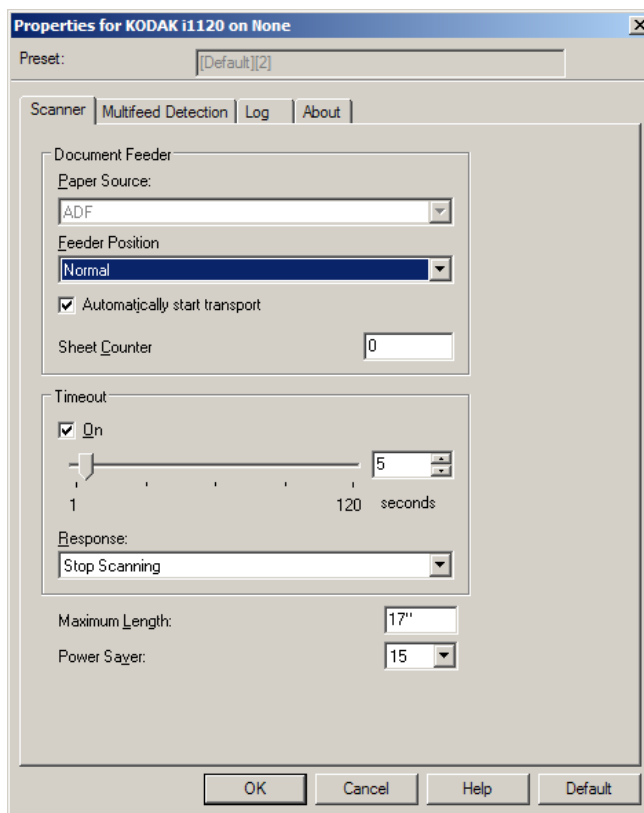
ISIS ドライバからスキャナー設定を開く場合は、Scan Validation Tool を前述の手順で開き、ISIS ドライバにアクセスします。



- **[スキャナー]**をクリックすると、スキャナーのデバイス設定ができます。以降の章ではスキャナー設定の詳細や手順について説明します。イメージ設定の手順については、本ガイドに前述の「イメージ設定の実行」という章を参照ください。

[スキャナー] タブ

[スキャナー] タブには、以下のオプションがあります。



ドキュメントフィーダ

給紙方法 : ADF — スキャナーは入力トレイからのみ原稿をスキャンします。

[用紙枚数カウンタ] — 次の原稿に割り当てられる番号を入力します。これは、スキャナーで順次カウントされ、イメージヘッドに送られます。

タイムアウト

- **[ON]** — 最後の原稿がフィーダーに入り、タイムアウトになるまでのスキャナーの待機時間を秒単位で設定します。
- **[レスポンス]** — タイムアウト時に実行するアクションを指定します。**[スキャン停止]**のみが選択可能です。タイムアウトになるとスキャンを停止してジョブが終了します。

[最長原稿サイズ] — 原稿セット内で最長の原稿サイズの値を設定します。

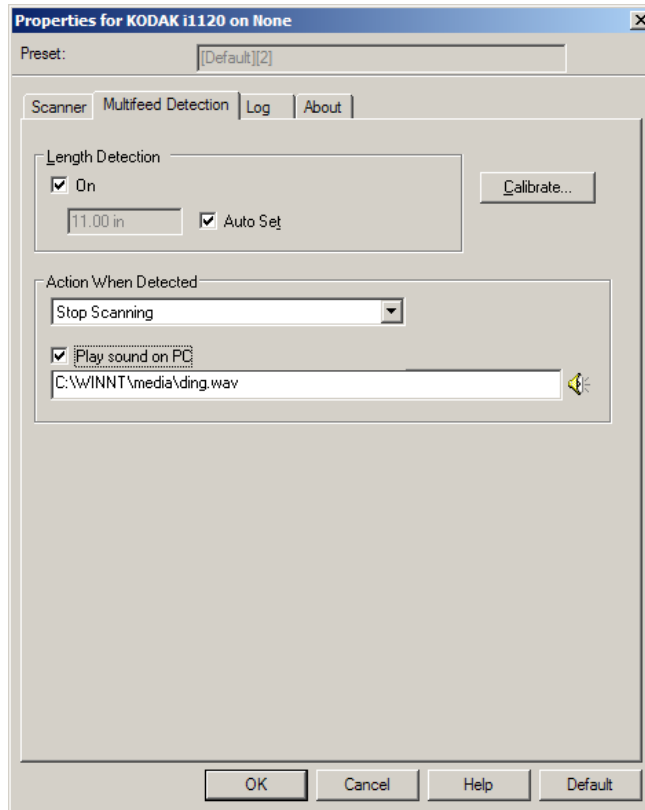
注 :

- **[モード]**と**[解像度]**によっては、原稿の長さが制限される場合があります。
- 長尺原稿の場合は、スキャナーの処理能力が低下する場合があります。

[節電モード] — スキャナーを使用していない時に省電力モードに移行するまでの時間を設定できます。

重送検知タブ

[重送検知] タブには、以下のオプションがあります。



重送検知

[長さを検知] — 有効／無効を切替えることができます。デフォルトは無効です。有効にした場合は、重送検知機能が無効になっているときにスキャンできる原稿の長さの最大値を設定します。同じサイズの原稿のスキャン時に重送を検出するために長さ検出を使用します。たとえば、8.5 x 11 インチ (A4) の原稿を縦でスキャンする場合は、**[最大長]** フィールドに 11.25 インチ (28.57cm) と入力します。

- **[自動セット]**: 現在選択されている用紙サイズより 0.50 インチ (1.27 cm) 長い値を自動的に最大長を設定します。

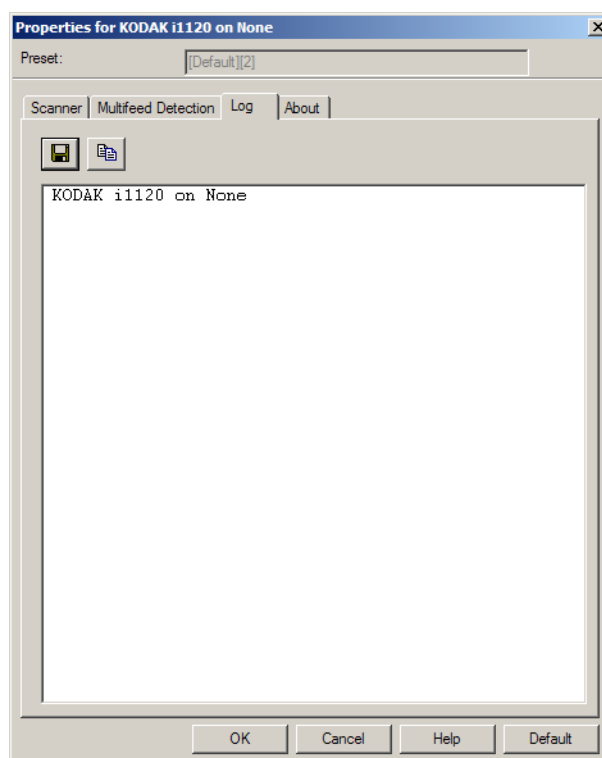
[アクション] — 重送検知時のスキャナーの動作を選択します。状態はスキャナーに記録されます。

- **[スキャンの続行]**: スキャンを継続します。重送用に設定した音を鳴らします。

注: **[スピーカー]** アイコンをクリックすると、**[開く]** ダイアログボックスが表示され、アラーム用の警告音 (.wav ファイル) を選択できます。

[ログ] タブ

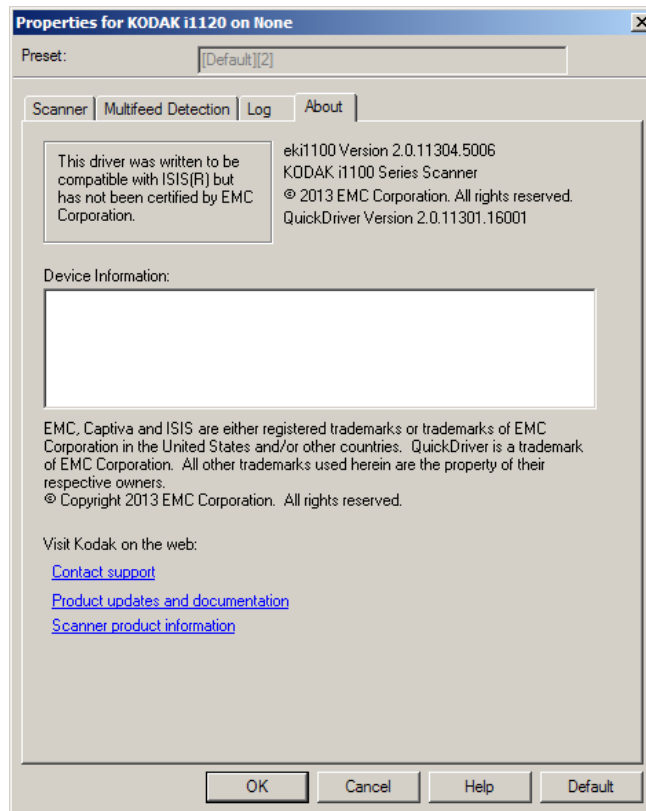
[ログ] タブには、これまでに発生したエラーが表示されます。



[保存] アイコンをクリックして情報をファイルに保存するか、[コピー] アイコンをクリックしてログの内容をクリップボードにコピーできます。

[バージョン情報] タブ

スキャナーとドライバに関する情報が表示されます。



Kodak